

今、求められている授業改善とは？

今回の学習指導要領では、これからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成のために、子どもたちが「どのように学ぶか」という学びの質を重視した改善が求められています。いわゆる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善です。

これまでの授業改善の取組においても、「主体的な学び」や「対話的な学び」の姿は比較的イメージしやすいため、様々な創意工夫が図られてきました。しかし、学びの深まりにはなかなかつながらないという現状も見られます。

育成を目指す資質・能力を育んでいくには、学びの深まりが重要です。そのためには、「深い学び」が実現できた子どもの姿を捉え、「深い学び」が実現できる手立てを取り入れた授業づくりを行う必要があります。

「深い学び」が実現できた子どもの姿の例

- 思考して問い続ける
- 知識・技能を活用する
- 知識・技能を概念化する
- 新たなものを創り上げる
- 知識・技能を習得する
- 自分の思いや考えと結び付ける
- 自分の考えを形成する

栃木県総合教育センター『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】』（H30.3）

「深い学び」の鍵とされているのが「**見方・考え方**」です。子どもたちは、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において、各教科等で習得した概念（知識）を活用したり、身に付けた思考力を発揮させたりしながら、「深い学び」に向かいます。この学びの過程の中で働かせているのが、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」です。

子どもたちが、どんな場面で、どのような「**見方・考え方**」を、どのように働かせるかを教師が意識し、授業の組み立てや具体的な指導について創意工夫をすることにより、子どもたちの学びは深まっていくのです。

「**見方・考え方**」を働かせながら学びを深めていく

「**主体的・対話的で深い学び**」が実現する

各教科等で目指す資質・能力が育成される



「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」とは？

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』には、「見方・考え方」について以下のように説明されています。

各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。

「見方・考え方」は、学習指導要領において、これまでも用いられてきた用語ですが、今回の改訂においては、各教科等の「見方・考え方」について改めて明らかにしています。

「見方・考え方」ここがポイント

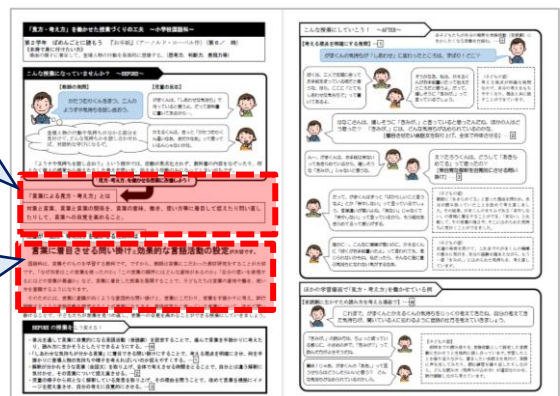
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら学ぶことが、それぞれの教科等の目標に示されています。
- ・「見方・考え方」は、各教科等の学びを通じて資質・能力を身に付ける過程で、子どもたちが働かせるものです。
- ・「見方・考え方」を働かせることを通して資質・能力が育まれ、それによって「見方・考え方」が更に豊かになるという相互の関係にあります。

「見方・考え方」を意識した授業づくり

次ページからは、子どもたちが「見方・考え方」を働かせて学ぶよう、教師が意識して行った授業づくりの例を紹介し、下図に示した部分で、その教科ならではの「見方・考え方」について詳しく説明しています。

各教科の特質に応じた「見方・考え方」について、「学習指導要領解説」より該当部分を抜き出し示しています。

「見方・考え方」を働かせるために、授業づくりで大切にしたいポイントなどを示しています。



資質・能力を育む授業づくりのために

単元や題材及び授業の目標(育成を目指す資質・能力)を明確にした上で

いつもの授業に、**子どもたちが「見方・考え方」を
どのように働かせるのか**
という意識をプラス！



◎その教科の「見方・考え方」を確認しましょう。

◎教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせられるよう、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかを明確にして授業を構想しましょう。

◎「見方・考え方」を働かせている子どもの姿を想定しましょう。

そのために、次のことを大切にしていきましょう。

単元や授業を構想する段階で

- 「見方・考え方」を働かせながら、問題を解決していく学習過程にする。
- 「見方・考え方」を働かせるような問いや資料を準備したり、場面や活動を設定したりする。

授業中の見取りで

- 子どもたちが「見方・考え方」を働かせていることを自覚させるために、称賛や価値付けなどの働きかけをする。

「見方・考え方」は、各教科等の学習の中で働くだけでなく、大人になって生活するにあたって重要な働きをしていくものとなります。日々の授業で鍛えられた「見方・考え方」を自在に働かせながら、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していける子どもたちを育てていきましょう。